
e news SEaweEDS No.34

日本海藻協会ニュース

2011年1月15日

I. 協会事務局からのお知らせ

1. 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり会員の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念いたします。今年も日本海藻協会発展のためにご支援下さいますよう、どうぞよろしく願いいたします。

2. 2011年度の会費のお願い

新年度と成りましたので2011年度の会費のお願いを近々送信致します。正会員様は3万円、準会員様は1万円となります。又、新規に会員に成られる方を御紹介下さい。

尚、この件に関しましてはあらためてご連絡申し上げます。

3. 海の森づくり推進協会シンポジウムの後援

海の森づくり推進協会から依頼のあった平成23年度「東京湾の環境と魚たち、今・昔」シンポジウム事業について、理事会の承認が得られましたので後援することになりました。

II. 海藻関連ニュース

1. 日本藻類学会第35回大会

日本藻類学会第35回大会が3月26日(土)－28日(月)に富山大学五福キャンパス共通教育棟で開催されます。参加費は6,000円(学生4,000円)、懇親会費は6,000円(学生4,000円)です。「藻類学ワークショップ1」(3月26日)の参加費は1,000円、「藻類学ワークショップ2」(3月28日－30日)の参加費は10,000円です。公開講座「富山県民のための昆布学」(参加費無料)は3月26日13:00－16:00に共通教育棟講義室C13で行われます。詳細は日本藻類学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsp/Welcome.htm> または「藻類」第58巻第3号をご覧ください。

2. 平成 23 年度日本水産学会春季大会

平成 23 年度日本水産学会春季大会が 3 月 27 日（日）－31 日（木）に東京海洋大学品川キャンパス（港区港南）で開催されます。詳細はウェブサイト <http://www.gakkai-web.net/gakkai/jsfs/kaikoku/index.html> をご覧ください。

3. 第 14 回マリンバイオテクノロジー学会大会（本協会協賛）

マリンバイオテクノロジー学会主催の第 14 回マリンバイオテクノロジー学会大会が 5 月 28 日（土）～29 日（日）にグランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）で開催されます。詳細はマリンバイオテクノロジー学会のウェブサイト <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmb/> をご覧ください。

4. 第 4 回国際応用藻類学会議（ISAP-2011）

国際応用藻類学会（International Society for Applied Phycology, ISAP）主催の第 4 回国際応用藻類学会議（The 4th Congress of the International Society for Applied Phycology, ISAP-2011）がカナダのハリファックス（Halifax）で 6 月 19－24 日に開催されます。総合タイトルは「応用藻類学における新しいチャンスの拡大」（Scale-up for New Opportunities in Applied Phycology）です。カナダの National Research Council (Institute for Marine Biosciences) が世話を担当し、会場は Halifax Marriott Harbourfront Hotel が予定されています。藻類の増養殖、利用、企業化などに関する専門家の世界各地からの参加が期待されています。

早期参加登録の締切りは年 5 月 1 日、宿泊申込み締切りは年 5 月 15 日ですが、講演要旨提出期限は 2 月 11 日です。講演要旨提出については www.isap2011-halifax.org/160-callabstracts_e.shtml を、会議全体については www.isap2011-halifax.org をご覧ください。

ISAP-2011 組織委員会のアドレスは ISAP2011@nrc-cnrc.gc.ca です。

5. 第 5 回ヨーロッパ藻類学会議

ヨーロッパ藻類学会連合（European Union of Phycological Societies）主催の第 5 回ヨーロッパ藻類学会議（The 5th European Phycological Congress, EPC5）が ”Exploring the Phycocosmos: A European Perspective” をテーマに 9 月 4 - 9 日にギリシャのロードス島（Rhodos Palace Hotel）で開催されます。詳細は <http://www.epcv.gr> をご覧ください。

6. 第 6 回アジア太平洋藻類学フォーラム（APPF 2011）

アジア太平洋藻類学会（Asian Pacific Phycological Association）主催の第

6 回アジア太平洋藻類学フォーラム (Asian Pacific Phycological Forum, APPF 2011) が 10 月 9-14 日に韓国麗水市で開催されます。ミニシンポジウム提案締切は 1 月 15 日、早期登録締切は 5 月 15 日、アブストラクト提出締切と参加登録締切は 7 月 15 日です。詳細は <http://appf2011.org> をご覧ください。

III. カレンダー

- 2011.3.26-29. 日本藻類学会第 35 回大会 (富山大学五福キャンパス)
- 2011.3.27-31. 平成 23 年度日本水産学会春季大会 (東京海洋大、東京・港区)
- 2011.5.28-29. 第 14 回マリンバイオテクノロジー学会大会 (静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」)
- 2011.6.19.-24. 第 4 回国際応用藻類学会議 (ISAP-2011) (カナダ、ハリファックス)
- 2011.9.4-9. 第 5 回ヨーロッパ藻類学会議 (EPC5) (ギリシャ、ロードス島)
- 2011.10.9-14. 第 6 回アジア太平洋藻類学フォーラム (APPF2011) (韓国、麗水)

IV. 新刊書紹介

- (1) 川村軍蔵 著 魚との知恵比べ〈三訂版〉(ベルソープックス 004). 四六判, 212 頁, 定価 1,890 円 (税込), 成山堂書店 (2010).
- (2) 海上保安ダイアリー編集委員会 編 海上保安ダイアリー (平成 23 年度版). ポケット判, 242 頁, 定価 1,050 円 (税込), 成山堂書店 (2010).
- (3) 社)日本船舶海洋工学会 編著 船舶海洋年鑑. A5 判, 100 頁, 定価 2,100 円 (税込), 成山堂書店 (2010).
- (4) 山田吉彦 著 海の政治経済学. A5 判, 216 頁, 定価 2,520 円 (税込), 成山堂書店 (2009).

V. 海藻 Q & A

Q 35-IMTA って何のことですか?

A-これは Integrated Multi-Trophic Aquaculture の頭文字をとったアクロニム (頭字語) です。直訳すれば「多栄養段階統合養殖」です。魚類の給餌養殖と貝類養殖と海藻養殖を、それぞれの養殖施設を近接して並べて統合的に操業管理しようとするものです。数年前から海藻関連の国際会議でも IMTA という用語が使われるようになり、すでにカナダ等では実用規模の統合養殖施設が操業を始めています。

具体的には、内湾の潮流の方向を考慮して (1) 魚類の給餌養殖施設 (網いけ

すなど)、(2) 貝類 (カキ、ムール貝、ホタテガイなど) の垂下養殖施設、(3) 海藻の養殖施設を順に上流側から下流側に向けて設置し、給餌養殖施設の下海底には (4) 底生動物 (ウニ、ナマコなど) の養殖施設を設置します。(1)の魚類の排泄物や喰い残した餌 (残餌) に由来する細かい粒状有機物は(2)の貝類の餌となり、(1)と(2)の動物の排泄物に由来する溶存栄養物質は(3)の海藻の栄養になります。また、(1)と(2)の動物の排泄物や残餌に由来する比較的大きな粒状有機物は(4)の動物の餌になります。このように、一つの統合養殖施設で生産された4種類の水産物=水産動植物は収穫 (漁獲) し、商品として市場に出荷され、食品その他の原料として利用されます。カナダ太平洋側のバンクーバー島沿岸や大西洋側のニューブランズウィック州沿岸ではすでにパイロット施設で操業が始まっています。

このような統合養殖は生態系における食物連鎖の概念に基づく栄養段階と物質循環を考慮したのですが、中国や日本では昔からすでに田圃でイネと共にコイを育てたり、コイやウナギの養殖池の管理で“水づくり” (植物プランクトンの生育管理) が重視されてきたし、近年では魚類養殖場の水の浄化に不稔アオサが用いられたり、オゴノリと魚やエビを同一の養殖池で育てたりしてきた実績があります。海産魚介類飼育水槽の水質浄化に海藻を用いることなど、これまではポリカルチャー (複合養殖) と呼ばれてきました。また、ノリ、ワカメ、コンブなどの養殖は立派な技術に基づいて重要な産業として確立されています。こうした技術や経験をとりいれ、生態系における食物連鎖の中の栄養段階や物質循環を考慮して科学的な統合養殖を確立しようとするのが IMTA です。

これまでのQ&A

Q1—「海藻」と「海草」は同じですか。(No.2 に掲載) **Q2**—ノリの「色落ち」って何ですか。(No.2 に掲載) **Q3**—海藻が多様な色彩を呈するのはなぜか？(No.3 に掲載) **Q4**—コンブやワカメは湯通しするとなぜ緑色になるのか？ 焼き海苔はなぜ緑色か？(No.3 に掲載) **Q5**—海苔が湿気ると赤紫色になるのはなぜか？(No.3 に掲載) **Q6**—テングサという種名の海藻はないのですか？(No.4 に掲載) **Q7**—「うみぶどう」は海藻の名前ですか？(No.5 に掲載) **Q8**—「キラー海藻」って何？(No.6 に掲載) **Q9**—日本の海苔は輸出されていますか？(No.6 に掲載) **Q10**—「髪菜 (はっさい)」は海藻ですか？(No.7 に掲載) **Q11**—中国で栽培 (養殖) されているノリは日本のノリと同じですか？(No.8 に掲載) **Q12**—「岩のり」と「青のり」は違うものですか？(No.9 に掲載) **Q13**—「心太」と書いて「トコロテン」と読むのはなぜですか？(No.10 に掲載) **Q14**—「鰯浦こんぶ」はコンブですか？(No.11 に掲載) **Q15**—日本産海苔の輸出状況はどのようになっていますか？(No.12 に掲載) **Q16**—「磯焼け」って何？(No.13 に掲載) **Q17**—「寒天」と「ところてん (心太)」は

どう違うのですか？(No.14に掲載) **Q18**—「はんぱ」って何？(No.15に掲載) **Q19**—「みずこ
んぶ」(水こんぶ)とは？(No.17に掲載) **Q20**—わかめ(若布)の製品にはどのようなものがあります
か？(No.18に掲載) **Q21**—有毒な海藻はありますか？(No.19に掲載) **Q22**—「とろろこんぶ」
(商品名)はトロロコンプ(種名)からつくられますか？(No.21に掲載) **Q23**—カワノリは淡水産
ですか？(No.22に掲載) **Q24**—「のりの佃煮」の原料海藻は何ですか？(No.23に掲載) **Q25**
—“ドゥルー祭”について教えてください。(No.24に掲載) **Q26**—“ISA”と“ISS”について教えて下
さい。(No.25に掲載) **Q27**—「すいぜんじのり」ってどんなノリですか？(No.26に掲載) **Q28**
—サンゴにはどんな藻類が共生しているのですか？(No.27に掲載) **Q29**—オイルをつくる藻類があ
るといのは本当ですか？(No.28に掲載) **Q30**—ジャイアントケルプはコンプの仲間です(No.29
に掲載) **Q31**—マツモはどのような食べ物ですか？(No.30に掲載) **Q32**—ノリの「種付け」って
何ですか？(No.31に掲載) **Q33**—海藻はどのくらい海を浄化しますか？(No.32に掲載) **Q34**
—“かわたけ”とはどんな藻類ですか？(No.33に掲載)

☆☆

この協会ニュースは、主として会員の皆様からの情報・資料に基づいて、月
1回(毎月15日付で)発行されます。情報・資料を下記宛にご提供下さい。

〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル 7F

マリン・サイエンス株式会社 内

日本海藻協会事務局

編集者：有賀祐勝 (arugay@mx4.ttcn.ne.jp)

☆☆